

ためらわずにできるようになったら

考えてみれば当たり前なのでしようが、ためらわずにそれができるようになったら大人だと私は思います。あなたはどのようにか。

今朝、登校を見届けている私の前に、一人の生徒がやってきました。

「おはようございます。昨日は高校にお電話をかけてくださり、ありがとうございますでした。」

「ちよっと遠い高校だけど、頑張って行ってきてよ。」

私がそう返すと一礼し、さわやかな笑顔を見せて坂を上っていききました。

一昨日の夕方、三年学年主任のY教諭が私のところにやってきました。某高校の体験入学に参加することを希望した生徒がいるが、申し込み日が過ぎてしまったのでどうしたらよいかとのことでした。その高校は県内ですが他地区にあります。通うにしてもかなりの時間がかかります。しかし、その高校に対して、時間や距離が気にならないくらい熱い思いをもっているなら、ぜひ体験入学させてやりたい。私はすぐにそう思いました。翌日の朝一番に、私は相手先の高校の校長に電話をかけました。校長につながりませんでしたので、応対してくださいった方に用件を伝え、Y教諭と担当者をつなぐ手はずだけをとのえしました。その後、Y教諭が連絡を取り、その生徒の体験入学が受け入れられました。

私が電話したことが、Y教諭からこの生徒に伝えられたのでしよう。つなぐだけつないですぐに出張に出かけてしまった私は、その生徒に礼を言われるまで、電話をかけたことを意識していませんでした。そんなときの言葉がけでしたので、やや驚く同時に、律儀に礼を言ってくれたその生徒をずいぶん大人に感じました。私は単純ですので、礼を言ってもらえると気をよくして、「次も何かあれば、やってあげたいなあ」と素直に思っています。いや、私だけではなく、往々にして人はそういうものではないでしようか。

円滑な人間関係は、こうやってでき上っていきます。どんなささいなことでも、やってもらったことに対しては律儀に感謝の気もちを伝える。これができるようになったら、人間関係がより深まり、信頼もどんどん集まることでしょう。

確実に大人になりつつあるこの生徒に負けないように、私も早速お礼の電話をかけました。だれにかけたかわかりますか。あなたが私の立場だったらだれにかけますか。それは「昨日つながらなかったその高校の校長」です。北中の生徒を無理を言っただけで受け入れていたことにお礼をいうのは、校長の義務ですし、大人としてのマナーですからね。（七月八日 記）